

ガンといわれた方、ガンといわれた方が身近に見える方に（平成 26 年度版）

ガンの相談が少しずつ増えています。

もちろんガンを治したいといってもそれは難しい話になります。

ですが、体の本来の力である体力、気力を漢方などで回復し、十分な免疫力を得ることは、ガンの治療をしていくうえでもそれ以外に生活していくうえでも、とても役に立ちます。また、病院で行っていく外科治療、化学療法、放射線療法から生じる体への負担や副作用症状を軽くすることは治療を有利にすすめていくことになります。

以上のことを踏まえて、漢方や自然食品を紹介しつつ、どのように利用するのがよいかを紹介していきます。

免疫力をあげたいのなら気力・体力の回復から

インターネットや書店などに並んでいる書籍などには「がん治療のために免疫力をあげる」ためと標榜しているものが本当にたくさんあります。実際に店頭で相談を受けていてももう自分で探して飲んでいて、家族や知人が心配して進めてもらったものを飲んでいて、たくさんの方がお見えになります。ですが「免疫力をあげる」ということは、**単に免疫力をアップさせればよいというものではない**という点に注意しないといけません。

免疫力がしっかりと働くためには**基礎的な気力や体力が必要**で、この手当てをしなければ、どんなに良い免疫力をアップさせるというものを利用して一瞬にして**効果が体から消えてしまうもの**になってしまいます。

まずは患者さんの気力・体力はどのような状態なのかという点を考慮し、体が次のことをしっかりできているかということを見ていく必要があります。

それは「**おいしく食べれる、きちんと排泄できる、良く眠れる、気持ちがよい**」という 4 点です。漢方ではこの 4 点がしっかりしている状態で初めて免疫力が発揮されると考えます。ですからこれらのどこかに問題があったり、強い治療でこれらに負担がかかっていたりする場合はそのケアをまず行わないといけません。お客さんで、免疫力をあげると聞いているからといっていくつもの健康食品を服用して、それだけでおなかがいっぱいになってしまい、食事も満足にとれなくなり、便秘の傾向になっている方がおられますがこれは本末転倒です。このような方は残念ながら予後が良くない例のほうが多くなります。

漢方的には

1. 気血の不足がないようにする
2. 気の巡りを良くして血の滞りを改善する

3. 腎精が傷つかないように注意し、不足なら毎日補う

この3点がとても重要になってきます。

では、以上の3点を中心に具体的にはこういった漢方などを解説しつつ、よいち漢方薬局の店頭でお客様がよかったといわれている商品の紹介していきます。

1. 体力、気力の回復して気血の不足を補ったり、体力、気力の低下を回復しやすくしたりするための漢方。がん治療の基礎となる治療です。

補全 - S (販売、天野商事)

漢方処方 of 十全大補湯を液状にした商品。「大補元氣」といってすべからず気力体力が落ちたり貧血になっていたり、食事がとれない状態になっているときに。気力体力を回復させる基本的な処方としてはバランスがよく一番力のある薬剤の一つです。ガンの患者さんすべてにお勧めできます。

霊鹿参 (救心製薬)

精という命の源を補うという鹿茸と体に気力を出させる紅参を併せたシンプルな処方の製剤。血液や腎精という気力体力の源を強くすることで基礎体力をアップさせます。抗がん剤や放射線治療では骨髄抑制という副作用が起こりやすくなり、ここからひどい貧血を起こすことは治療上問題になりますが、この製剤はこれを予防、治療してくれます。鹿茸と人参（紅参）が入った製剤はほかの商品もあります。

補中益気湯 (クラシエ)

胃腸を助け体の元気を保つ漢方処方です。最近の研究ではこの処方の中のいくつかの生薬が免疫系の働きをアップさせ、腫瘍に対して攻撃力を高めるという結果を得ています。

知柏地黄丸 (クラシエ他)

この漢方薬は加齢現象からくる体の衰えを改善するとされています。特にホルモン系の弱りを改善することで、基礎体力をあげ、免疫力が持続的に働けるような体を作ります。抗がん剤や放射線治療後のほてりや微熱感を感じる方によい漢方です。

八仙丸 (イスクラ)

肺と腎の衰えを改善し、体力のアップを行います。肺が弱ったりもともと呼吸系が弱かったりして、空気をうまく取り込めない方に勧めています。空気をいっぱい体に取り込めないと気力が上がらず、これは精神的な面や体力面に関してマイナスになります。その結果、免疫力も落ちてしまいます。この薬を飲むことで、これらの治療、予防になります。

2. 気の巡りを良くして血の滞りを改善する。

気力の低下や不安感、種々のストレスにより精神的なエネルギーを消耗してしまうのを防ぎます。漢方では気の流れが悪いと血液の流れも悪くなります。免疫細胞は血流にのって運ばれますし、体の抵抗力は血流によって維持されるとも言えます。ここを維持していくことはがん治療の上では欠かすことはできません。よく眠れない、食欲がわからない、体がだるい、顔色がよくない、小便があまり出ないなどの症状や気が落ち込む、イライラする、憂鬱な感じがするなどの症状は気の巡りが悪くなっているときに起こりやすくなります。

「百病は気の乱れより生ずる」という言葉が古い漢方の書物に書かれています。病気を治すためには気の滞りを改善し、気血の巡りを良くしてあげることが大切です。この考え方は漢方独自のものです。ですが気力、体力、免疫力の根幹にかかわる大切なことです。思い当る方はここから治療するとよいでしょう。

不眠、不安感

病院ではこれらに対して安定剤や抗不安薬などを処方してくれますが、抗がん剤使用時や体力が落ちている状態ではこれらの薬が予想よりも効きすぎてしまったり、肝臓に負担になったりすることもあります。こういった場合は生薬製剤のほうがより安全に使えることもよくあります。

救心感応丸気（救心製薬）、虔脩感応丸（クラシエ）

動物生薬の麝香、牛黄を配合し、気の流れを正常に戻す働き「気付け」という働きがあります。就寝前に服用すると、睡眠の状態が改善することが知られており、ぐっすり眠れることが多くなり、結果、体が十分な休養が取れ気力が回復し、不安感が和らぎ、免疫力もアップします。また、麝香には体の経絡を開き、気血の流れを改善することで免疫力のバックアップをし、さらに「諸薬の効能を引き出す」とされていることから、がんに対しての病院での治療薬の効果を高める可能性もあります。すべての方にお勧めしたい商品です。

ミンハオ（イスクラ）

真珠貝や琥珀などを微粒子状の粉末にして、錠剤にしたものです。宝石漢方とも言われます。漢方的にはこれらの生薬は安神作用があるとされ、脳の過緊張状態を落ち着かせる働きがあるとされています。実際飲んでもらうとぐっすり眠れたという声が多い商品です。ぐっすり眠ることで不安を解消し、気を前向きにさせることができます。

冠元顆粒（イスクラ）ほか

瘀血（おけつ）という血液の滞りを改善してくれます。ガンに抵抗する免疫細胞は血流によってほとんどが運ばれます。ところががん細胞ができるとその周

辺で免疫細胞を寄せ付けないように血流を阻害してくることがあります。また、手術、抗がん剤、放射線など治療により血行が一時的に悪くなってしまうこともあります。体の回復にとって良い血流は欠かせません。顔色が悪い、肌にくすみやシミがある、舌の色が紫っぽいなどの症状や、手術で臓器を切ったなどの後には、この瘀血が生じているのでここを改善します。この改善を行うことは傷の治りを良くし、合併症や副作用の軽減につながります。

3. 腎精が傷つけないように注意し、不足なら毎日補う

腎精（じんせい）というのは命の源であり、「命門の火」ともよばれ、生命エネルギーの源です。これは両親から受け継ぎ、また毎日の食事から補うことで命を保っています。ガンの治療で体力を消耗したり、気力を消耗してしまい、眠れなくなったり、食事がきちんととれなくなるとこの腎精が傷つけられてしまいます。こうなると免疫力はいくらあげようと思っても難しくなります。

特に50代以降の方の場合は、ここがとても重要になることがあります。これは年齢を重ねることにこの腎精が減ってくるからです。ここが減ると、骨が弱くなり、骨力が失われ、骨髄の造血作用が弱くなって貧血が回復できなくなります。また骨力が弱いとがんの骨転移、脳への転移も起こりやすくなると考えられます。

身体を芯から丈夫にして病気と闘える態勢を整えるためには欠かすことのできないポイントです。

腎精を補う漢方

霊鹿参（救心製薬）

精という命の源を補うという鹿茸と体に気力を出させる紅参を併せたシンプルな処方。血液や腎精という気力体力の源を強くすることで基礎体力をアップさせます。抗がん剤や放射線治療では骨髄抑制という副作用が起こりやすくなり、ここからひどい貧血を起こすことは治療上問題になりますが、この製剤はこれを予防、治療してくれます。鹿茸と人参（紅参）が入った製剤はほかの商品もあります。

参茸補血丸（イスクラ）

人参と鹿茸のほかに竜眼肉などを配合した製品。貧血傾向がある方にお勧めです。

双料参茸丸（イスクラ）

冬虫夏草、人参、鹿茸などの配合された体を温め強くする「温補」「補腎精」「強壯」作用の強い漢方薬です。冬虫夏草などの配合により肺や胃の機能をたすける働きがあり、特に胸部の疾患や呼吸が弱くなった方などにもお勧めです。肺

の切除や肝臓、腎臓などの手術後の体力回復、免疫力維持にお勧めです。手足が冷たく感じる方にもおすすめ。

以上のことを踏まえ、気力、体力、内臓の働きを整えつつ、免疫力をアップさせる以下の商品などを組み合わせるとより一層の免疫力アップが期待できます。代表的な商品をご紹介します。

免疫力に対して

アガリクス茸

煎じるタイプ—ブラジルサンパウロ州ピエダーテ産

これは自分で煎じて服用するタイプで、よいち漢方薬局で一番よく出ているものです。煎じるときに、水で煎じて（一番煎じ）、その煎じた後に、煮汁とアガリクスを濾し分けて、もう一度水に焼酎を加えて物で煎じてやり（二番煎じ）、この一番煎じと二番煎じを併せて服用していきます。原産地の貴重なアガリクス茸で、味はとても甘いです。

製剤タイプ

万寿丹S ゴールド（クラシエ）

一般的に市販されているものの中で、抽出されるアガリクス茸の品質が良く、βグルカンの量が十分入っていて、さらに酵母の添加により、腸からの吸収が良く、また免疫枯渇も予防できる優れたものです。アガリクス茸製剤の中で特によかったという感想が多い商品です。他のアガリクス茸のみでできた製剤に比べて酵母の添加が非常に良いバランスになっている商品です。

神仙丹M（クラシエ）

アガリクス茸に冬草夏虫を加え、そこに酵母を添加したものです。ここで使われている冬草夏虫は、北虫草という人工栽培のものを使用しています。冬草夏虫は体の体力を回復させ、肺を助けるとされていて、肺や胃の病気によいとされています。

万寿霊茸（まんじゅれいしょう）（タキザワ）

21種類の茸の菌糸体を配合した商品です。商品としての歴史は長く、お客様から調子がよいと継続服用の方の多い商品です。

星火霊芝宝（イスクラ）

霊芝の貴重な胞子を集めて作られた製品です。他の茸製剤の多くが糖質類を中心にしていて、水に溶けやすい成分が中心の製剤なのですが、この製品の成分は脂肪分に溶ける成分が中心です。ガンの細胞によっては細胞膜を構成する脂肪分に溶ける成分のほうがよいとされていることがあり、そういったものに対しておすすめしています。

シベリア霊芝（茶）（イスクラ）

チャガと呼ばれるカバノアナタケの茸を主成分にしたものです。むくみをともなったできものや、腺（卵巣、前立腺など）と呼ばれる器官によいとされています。お茶として飲めるものと、それを錠剤に固めたものがあります。イスクラ産業の商品は原末を加工しているのでエキス製剤よりも使った感じが良い手ごたえがあります。活性酸素除去作用が強いという報告があります。これを服用していると白髪が黒髪に戻ったという話があります。これは活性酸素の除去作用と関係していると思われます。

MRE 起源（創建）

土中細菌の細胞内にある酵素を取り出して利用するものです。これによりマクロファージが活性化し、免疫力をアップさせているのではとされています。マクロファージは貪食といって古い細胞や敵になる抗原を食べ、それによりほかの免疫細胞に攻撃を仕掛ける相手の情報を知らせる働きがあります。MRE 起源は体の外に古くなった細胞を排泄させて体を掃除してくれるのではないかという点が注目をされています。抗がん剤や放射線でがんを攻撃をして、壊れたがんの細胞を早く取り除ければそれだけ免疫的には優位になると考えられます。これを行うことにより作ろうとしている免疫力の働きが高まることが早くなります。

その他

その他にがんの治療中に生じてくる体の深い症状を取るための漢方薬もいろいろあります。治療中の体調や症状に合わせて次のような漢方薬を良く選びます。

体のだるさ

霊黄参（れいおうさん）（救心製薬）

牛黄（ごおう）という高貴薬を配合した製剤です。牛黄は中国ではセンソ、麝香と合わせてがん治療には欠かせない生薬とされています。それは以下の理由によります。

体のだるさをもたらすのは活性酸素です。がん治療や、病気に対してのストレスなどから体の中に活性酸素が増加すると、とても強い倦怠感が生じることがあります。また、貧血や食欲不振などからも起こることがあります。このような時に漢方では牛黄（ごおう）という生薬を良く使います。霊黄参はこの牛黄に人参、紅参を配合して体の倦怠感を急速に改善する商品です。

倦怠感が軽くなるだけでも気力の回復は早くなり、免疫力の低下を予防してく

れます。

律鼓心（救心製薬）、六神丸（救心製薬他）

センソという生薬が配合されている製剤です。センソの成分のブファリンには抗腫瘍作用が見つっています。中国ではがん治療に使われる多くの漢方処方の中にこのセンソは先の牛黄と併用して配合されています。白血病やリンパ腫などに期待されています。六神丸には気付け作用があるので、睡眠の改善、口の中の痛みの改善などが期待できます。

HYBRID Resvera GS（ハイブリッドレスベラ）（日本レスベラトール株式会社）

発芽ブドウ種子濃縮エキス含有加工食品です。今注目されている商品で、がん細胞が大きくなるときに周辺の正常な細胞を傷つける活性酸素を抑えてくれるのではないかといわれて研究されています。実際に服用していると体の倦怠感が和らいだりします。どんなタイプの方にもお勧めできます。

アルフラット（メディココンサル）

亜鉛、紅景天製剤。亜鉛は肝臓の元気さには欠かせないミネラルです。また紅景天は血液中の酸素を維持する作用があり、これにより体の細胞に対してきちんとした酸素供給をおこなえるようにしてくれます。これは弱った体にはとても大切なことで、深呼吸をずっとしてくれるようなものなのです。肝臓や肺などの疾患の方にお勧めできる補助剤です。

口内炎、舌炎、食欲不振

口から投与できる抗がん剤を使用すると多くの方が食欲不振や口内炎、舌炎に悩むことが多いようです。これらに対しても生薬配合製剤が効果的なことがよくあります。

熊参丸（クラシエ）

動物生薬の熊の胆、センブリ、竹節人参という生薬からなる胃薬。胃の運動を抑えることなく、胃に溜まった熱を取ることで食欲不振を改善します。熊の胆には利胆作用もあり胃から下の方向での消化も助けるので消化全般にリズムの回復を促してくれます。

桂鯉丸（昭和化学工業）

鯉の胆を配合した生薬配合製剤。苦みが強い胃薬ですが、抗がん剤などで粘膜が焼けているときには非常に口当たりがよく感じられ、食欲が回復する方がおられます。

桂枝五物湯（原沢）、甘露飲（小太郎漢方）

口内炎の内服薬。生薬の黄芩の働きで粘膜の熱をさまし、口内炎を早く鎮めてくれます。経口の抗がん剤を使用している方の中には口内炎が現れることがよくあります。これらの漢方は、口内炎や粘膜のただれを回復させてくれます。これだけでも食事が取れやすくなり、心理的、身体的な負担軽減につながりま

す。

具体的な服用の仕方

以上いろいろな製剤の説明をしましたが、実際どれを飲めばいいの？ということになるかと思います。

基本的には気力体力をあげる、体の状態に合わせて不快な症状や、体調を整える、そのうえで免疫力をあげるという順序で考えればよいのです。

それと、がん治療を行っている状態を合わせて考え、その時の体調に合わせて「**体を作る**」ということを基本にするとよいです。

また、ガンの進行具合（ステージ）によっても選ぶ漢方薬などを考えると良いです。それぞれはその時のいろいろな条件で変わりますのでご相談いただければ検討させていただきます。

こういった治療である程度の量を飲むのは、次のような期間をおすすめしています。治療開始から7か月はできるだけのことを、1年半ぐらいまでちょっと多めで体を支えるとよいと考えています。

これは私の知っている幾人かのがんの専門のお医者さんの経験則で、治療開始後半年ぐらいと、18か月ぐらいにがんの節目があるような感じがしているということに基づいています。この頃に転移が見つかったり、再発が見つかったり、また抗がん剤などの治療効果が低下したりするような感じがあるといわれるからです。

基本的には気力、体力をあげる漢方を中心にして、免疫力を支えるものをそれに足すというスタイルが良いです。体力のある方、気力のある方なら免疫力のみでもよいですが、ガン治療の状態やがんの状態によっては牛黄、センソといった動物由来の薬を中心にして体を支えたり、冬虫夏草配合の漢方を使って抵抗力をあげたりすることがいい場合もあります。

いずれにしても、その時の体の状態や、もともとの体質が大事になってきますので、個々人にあったものを服用することが大切です。「ある人がこれがよかったから」という受け売りで飲んでしまうと、本当に自分に合っているのかということを考慮していないことになり、せっかくの漢方が全然力を発揮してくれないこともあり得ます。

「自分に合ったものを飲む」このことが何より大切です。